

科学コミュニケーション連携推進事業
「リスクに関する科学技術コミュニケーションのネットワーク形成支援」
プログラム 平成24年度採択企画
最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名

放射線安全確保に資するコミュニケーション技術開発と専門家ネットワーク構築

2. 提案機関

京都大学

3. 連携機関

茨城大学、東京工業大学、福井大学、長崎大学、東京大学、放射線医学総合研究所、高エネルギー加速器研究機構、公益財団法人 体質研究会、公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団、福島県伊達市諏訪野町内会、セシウムバスターズ郡山、NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット、福の鳥プロジェクト、日本放射線影響学会

4. 企画の概要

「放射線の健康影響」に関する科学技術コミュニケーションの実態を、一般人および専門家の立場から調査・解析し、得られた結果に基づいて、リスク事象を乗り越えるために必要なリスクコミュニケーション技術の開発を行うとともに、そのスキルを最大限に発揮できるネットワークを構築する。

5. 最終ヒアリング結果

5-1. 活動実績および計画の達成状況

本企画について、計画は達成され、十分な活動の実績をあげた。

支援期間中にわたり、44回もの市民意見聴取会を福島県をはじめ山形県や東京都の各地で開催し、精力的に活動が行われたことや、専門家ネットワークの構築のための手法探索、設置した研究会の開催など、個々の取組が着実に行われたことについては、十分な活動の実績として評価できる。

5-2. 成果及び波及効果

本企画の成果および波及効果については、一定の効果があつた。

支援期間中の活動を通じて、プログラムの趣旨である緊急時のリスクコミュニケーションで今後の活動を発展させる上で必要なコミュニケーション技術の開発と専門家ネットワークの構築に資する情報収集がある程度できたと思受けられる。精力的になされた諸活動の結果が、市民にどのように反映されたのかといった知見や、専門家同士のネットワーク形成の手法については、収集した情報の解析が待たれるところである。

5-3. まとめ

あくまで科学者、専門家としてのスタンスを崩さずに市民、ステークホルダーのコミュニティに溶け込み、リスク情報の伝達に力を尽くし、また同時にリスクコミュニケーション実施にあたる専門家のあり方を追求した取り組みは評価に値する。今後、支援期間中に収集した情報の解析結果をふまえて、コミュニケーション手法の開発や見直し、専門家ネットワークの構築が図られ、充実した専門家ネットワークの醸成や市民への成果還元がなされるよう、ネットワークの発展に期待したい。

以上